

JR東労組・劇団文化座 新年交流会



JR東労組は、1月4日に「JR東労組・劇団文化座 新年交流会」を開催しました。これまで先輩方が築いていただいたJR東労組と劇団文化座との交流を若い世代に引き継いでいこうという目的で、本部と各地本代表者、劇

団文化座の俳優のみなさんにも多数参加いただき、劇団代表の佐々木愛さんから講演をいただきました。

講演ではJR東労組との出会い、愛さん自身がJR東労組の取り組みに参加して、触れ合い感じたことをユーモア

も入れて多岐にわたり語っていただきました。

これからも、「抵抗とヒューマンズム」という共通の信念のもと、文化座のみなさんと連携して、平和で安心して暮らせる社会をめざしていきます。

ご講演(要旨)

JR東労組とのつながり
劇団文化座 代表 佐々木 愛

JR東労組青年部に広島・長崎に関する貸し切り公演をしていただく機会がありました。劇団として、これからの文化座のお芝居を見ていただける人たちになってほしいとの想いと、貸切るなんてどのような人たちなのだろうと思いました。開演のあいさつを、当時の青年部長だった佐藤英樹さん(現在の中央執行委員長)がしていました。

貸切公演後に劇団にご挨拶に来ていただいた時に、「これからも仲良くやっていきましょう」という内容のお手紙もいただいていたので、つなぐことができました。その後、JR東労組の事務所が田端にあるからお芝居のポスターを貼っていただくと思って伺ったら、本部と田端は違ってたんですね。失礼しましたと帰ろうとした時に、せっかくなので帰らなさいと声をかけていただきました。そのお芝居を見に来ていただきました。そして、演劇ってこんなに面白いものだと思わなかったと言っていました。

それから、「政経フォーラム」にお招きを受けてお話をすることになりました。(2002年4月「戦争と人間は永遠のテーマ」朝9時という早い時間の開催で、舞台と違って明るいところで話す機会がありませんでした。会場に行く、全員がダークスーツで、みなさん時間厳守でピシッと座っていらして、びっくりしていました。生まれて初めて背広を着た男性ばかりの集団の前にいるので、何を話していいのかわかりませんと言ったからお話しさせていただきました。

私は、父から「一生勉強だ」と言われていたもので、いつでも自分に足りないものがあったら、「自ら足を運んで学んでいこう」という好奇心は人一倍ありました。なので中国の平和研修など開催していると聞き、自分自身としては触れなければならぬことだと思っていました。が、あまりにも辛すぎていけないところだったので、一緒に連れて行ってくださいとお願いして、南京や平頂山の研修に参加させていただきました。それからは、公演で中国を訪れ

た時には、劇団員を全員連れて見学するようにしました。

「抵抗とヒューマンズム」という松崎さんの言葉が、文化座をつくった父と考え方が合っていましたし、劇団と共通なところがあると思います。

浦和の冤罪事件とか、JR東労組についてマスコミの様々な報道がありました。私としては個人として話していたので、信じられる人たちがだと思っていました。浦和の事件が起こったときに、支援する会に入ってくれないかと言われ個人として入りました。私たち新劇の人たちが何もしていないのにアカと言われていることに似ているなと思いました。演劇はセリフの間にもいろいろなことを伝えられるんです。なので演劇人は牢屋に入れられて表現の自由を奪われました。

東日本大震災のあと、福島公演に行くことができたときに、被災地に連れて行っていただきました。マニュアル通りではなく人の命を守る行動をしたこと、優れた人たちの集団だと思いました。

たくさんあったことをどう話していいのかわからない、お酒を飲んだ時間もたくさんあります。大変な時代だけに諦めないでお互いに頑張っていきたいと思います。

1月15日、16日、昨年の「第32回情報コンクール」で最優秀賞を受賞した機関を対象にした研修を関西の地で開催しました。

1日目はJR西労の幸書記長から、日勤教育に対するたたかい、

一時金を要求し実現させたたたかい、そして能登半島地震での取り組み状況など報告を頂きました。その後に見交換や本部旗開きで取り組んだカンパ、職場で取り組んだ撤布などを手渡し、JR総連としての団結、連帯の必要性を感しました。

2日目は福知山線脱線事故の「事故現場」を訪れて献花し、改めて企業犯罪であること、安全を何よりも優先し、阻害する懲罰的日勤教育を絶対に許し

研修となりました。

今回は福知山線脱線事故の「事故現場」を訪れて献花し、改めて企業犯罪であること、安全を何よりも優先し、阻害する懲罰的日勤教育を絶対に許し

研修となりました。

今回は福知山線脱線事故の「事故現場」を訪れて献花し、改めて企業犯罪であること、安全を何よりも優先し、阻害する懲罰的日勤教育を絶対に許し



「第32回情報コンクール」最優秀賞受賞機関研修



2日目は福知山線脱線事故の「事故現場」を訪れて献花し、改めて企業犯罪であること、安全を何よりも優先し、阻害する懲罰的日勤教育を絶対に許し

研修となりました。

今回は福知山線脱線事故の「事故現場」を訪れて献花し、改めて企業犯罪であること、安全を何よりも優先し、阻害する懲罰的日勤教育を絶対に許し

研修となりました。

今回は福知山線脱線事故の「事故現場」を訪れて献花し、改めて企業犯罪であること、安全を何よりも優先し、阻害する懲罰的日勤教育を絶対に許し

研修となりました。

今回は福知山線脱線事故の「事故現場」を訪れて献花し、改めて企業犯罪であること、安全を何よりも優先し、阻害する懲罰的日勤教育を絶対に許し

1月28日、仙台プレイボウリング大会において、「JR東労組第14回ボウリング大会」及び、「第15回ボウリング部総会」を開催しました。総勢35名が参加し、個人戦3ゲーム、トータルピンで熱戦が繰り広げられました。

今回は幹事会での議論を経て、組合員が集まりやすく、駅から近いボウリング場を選定して日帰りの開催となりました。次回は今回参加していただいた仲間と共に、より多くの参加者を目指し、また、一泊での開催が出来るように取り組んでいきます。

全地本からの参加とはなっていない課題はありますが、集まることで、ボウリングをする仲間の大切さを改めて確認できました。各地本、ボウリングの仲間・サークルの仲間と連携して、次回のボウリング大会の開催に向け、仲間と共に組織を強化・拡大していきます。

11月28日、仙台プレイボウリング大会において、「JR東労組第14回ボウリング大会」及び、「第15回ボウリング部総会」を開催しました。総勢35名が参加し、個人戦3ゲーム、トータルピンで熱戦が繰り広げられました。

今回は幹事会での議論を経て、組合員が集まりやすく、駅から近いボウリング場を選定して日帰りの開催となりました。次回は今回参加していただいた仲間と共に、より多くの参加者を目指し、また、一泊での開催が出来るように取り組んでいきます。



11月28日、仙台プレイボウリング大会において、「JR東労組第14回ボウリング大会」及び、「第15回ボウリング部総会」を開催しました。総勢35名が参加し、個人戦3ゲーム、トータルピンで熱戦が繰り広げられました。

大会成績

1位	盛岡地本	佐々木 雅彦	514ピン
2位	大宮地本	大河原 和也	474ピン
3位	大宮地本	内野 信寛	468ピン

新役員

部長	岩崎 史誉	盛岡地本 (青森統括センター)
副部長	小島 勇	横浜地本 (横浜土木技術センターOB)
副部長	八木 則正	東京地本 (東京新幹線運輸区OB)
事務長	石戸 亨	仙台地本 (福島統括センター)

—サークル 今後の予定—
JR東労組サークル協議会
サークルセミナー

日時 2月27日(火)13:00~ 場所 東京地本会議室
 対象 各サークルから2名、各地本代表者1名

羽越本線列車脱線事故から18年

5名のお客さまが亡くなり、お客さま31名と乗務員2名が負傷した「羽越本線列車脱線事故」から18年を迎えた12月25日、JR東労組として現地に立ち、献花・黙とうを捧げました。

私たちは命を守ることを最優先に「危険と感じたら列車を止める」などの実践を重ねてきましたが、いまJR東日本の安全は危機的状況にあります。



特に2023年は、内房線での感電死亡事故や、東海道線での電化柱との衝突事故、落とし物拾得作業での触車未遂、ヒューマンエラーの続発など、まさに異常事態です。そして、乗務員が懲罰的と感じる日勤教育を実施するなど、「責任追及から原因究明へ」の安全哲学とは真逆の状況にあります。

組織再編や「融合と連携」によって一人で何役もの業務をこなしていますが、それによって疲弊している組合員・社員が多くいます。働き度が高まり続ける現状を見つめ直し、一人ひとりが「安全」に集中するにはどうすべきかをみんなで議論し、実践しましょう！